

アフガニスタンで行ったボランティア活動の話などをうかがった。「環境を守ることが国際協力につながる」「相手の立場に立って活動する」、そして「まずは自分の身の回りから見直すことが大切」という貴重なアドバイスをいただいた後、子ども達は、節電や節水、好き嫌いをしないなどの意識が芽生え、それ以来、自分の毎日の生活を見直すことを心がけている。

5. 「青年海外協力隊OB・日本ユニセフ協会職員の方をお招きして」

1学期末には、青年海外協力隊OBの方をお招きして、ケニアでの国際協力活動の様子をお話いただいた。学習後、「将来は青年海外協力隊を目指したい」と感想を述べた子どもが多くいた。また、ケニアでの全くごみが出ない生活の話や学校や子どもたちについて話など、日本とはまったく違う環境に、9名はとても驚かされるとともに、「物やお金がたくさんあれば幸せなのか?」とも考えさせられた。続いて、日本ユニセフ協会北海道支部の方を外部講師として招聘した。そして、たった100円で、開発途上国の多くの人の命が救えることを知る。「かわいそうだからではなく、同じ地球の仲間として助け合うことが大切」「国際協力の必要性を広めることが国際協力活動の第一歩」という言葉が子ども達の心の中に残った。



青年海外協力隊OBをお招きして

6. 「ビデオやメールで現状を知る」

多くのビデオや資料などでも、開発途上国の現状について学んできた。「水道が無く、不衛生な水をやむなく飲んで病気になったり、食料不足で栄養失調になっている」「家計を少しでも援助するために、学校にも行けず、1日中、働かされている子どもたち」「世界では、3~4秒に1人の子どもが死んでいる」「ある貧しい国の平均寿命は、なんと37才」「日本は今から約50年前は、多くの国々に援助してもらっていた」「現在は、開発途上国からたくさんの資源や食料などを輸入していて、日本は多くの国々に助けられている国だ」...そんな数々の現実を目の当たりにして、子どもたちは、国際協力活動の必要性を徐々に理解し始める。カンボジアやネパール、そしてスリランカに住む日本人の方に、電子メールを利用して、開発途上国の様子を直接教えていただきました。「1人で1万円よりも1人1円で1万人の募金」の大切さを感じたのは、この頃である。

7. 「JICA研修員・国際協力フェスタ・JICA職員からいただいたアドバイス」

2004年10月の初めには、コスタリカ・ホンジュラス・パナマ・ドミニカ共和国・エルサルバドル・グアテマラ・ニカラグアから来た9名のJICA研修員と実際に会い、それぞれの国の様子について教えていただいた。その結果、外国とか開発途上国とか、



中米の人たちと開発途上国について語り合う

ひとまとめで考えず、様々な国があることを理解しなければならないことに気づいた。開発途上国の人々のために、自分達ができることは何だろうか? 子ども達が考えている「国際協力活動」について、アドバイス

もいただくことができた。その後、札幌で行われた「国際協力フェスタ」にも参加。特にNGOの方から、「活動は1人では長続きしないので、多くの仲間と一緒にいることが必要」「目標を持って、楽しみながら協力活動を行う」などの貴重なアドバイスを受けた。続いて、「自分たちが考えた国際協力活動」を具体的に進めていくため、JICA札幌の職員の方に相談させていただいた中で、今年は、国際協力50周年だということも知る。「目的をはっきりさせる」「日本のような国にしてあげることが目標ではない」など、自分たちの活動に生かせるヒントをいただき、実践に向けてさらなる意欲を持つ子ども達であった。

8. 「自分たちの6つの国際協力活動」

これらの学習から子ども達は、国際協力活動の必要性を強く感じ、開発途上国が必要としていること、価値ある活動について話し合った結果、実際に6つの活動に取り組むこととなった。まずは、募金活動。美唄および札幌市内の4カ所で行った結果、多くの方々のご理解ご支援をいただき、約10万円もの募金額となった。2つ目は、古切手や使用済みカード・書き損じ葉書の収集。現在、交流校である広島県の小学校や市内のコンビニなどにも依頼。これらの活動を知った札幌の見知らぬ方から、多くの使用済みカードが送られてきたこともあった。3つ目は、2004年12月に学校内で実施したバザーの収益金の募金である。4つ目は、フェアトレードへの協力である。あるイベントにおいて、ケニアの民芸品販売の手伝いを行った。5つ目は、カンボジアのNGOの要望を聞いて活動すること。メールで相談させていただいた結果、チャリティーCDの購入とカンボジアの子どもたちとの文通が決定し、現在、取組中。最後に、広報活動である。「国際コメ年北海道シンポジウム」での発表、そしてTVやラジオ番組にも出演するなど、途上国の現状と国際協力活動の必要性を多くの場で強くアピールしてきている。



民族衣装を着てフェアトレードのお手伝い

おわりに

「国際ボランティア作文コンクール」において、6年生のある子どもが日本郵政公社総裁賞という日本一に値する賞を受賞した。これは「さまざまな活動あつての強い主張」が認められたものであった。

今年2月と3月には、途上国の子どもたちと文化交流を目的としたTV会議も行った。国際協力活動には、日本と外国の文化を理解することが重要だからである。そして、3名の子どもたちが春休みに韓国へ行って、子ども同士の交流を深めてくる予定である。また、台風などの被害に遭いながらも、子ども達がなんとか収穫したインディカ品種の種もみを、国際協力活動に興味がある全国の学校に配布して、栽培していただきたいと考えている。そして、国際協力の芽を育て、その必要性を広めていってくれることを願っている。興味がある学校や先生がいらっしゃいましたら、ぜひご一報いただきたい。

小さな学校の大きな挑戦! 西美唄という小さな視点から、北海道、日本そして世界にまで広げた学習活動。9名の子どもたちは、今春卒業し、中学生となる。そして数年後、社会人となっても、生涯にわたって、この2年間の学習を生かしながら、地球市民の一員という自覚と自信を持って、国際協力活動に対して瞳を輝かせ続けてくれることを願っている。

美唄市立西美唄小学校

〒072-0056 美唄市西美唄町山形3区 Tel (01266) 9-2921